

質高い個別化医療推進へ

がん遺伝子診断でシンポ

北大探索病理·腫瘍病理

北大病院「がん遺伝子診断外来」の4月スタートを前に、同大の探索病理学講座(田中伸哉教授、西原広史特任教授)と腫瘍病理学分野(田中教授)は特別シンポジウムを開催。先行して取り組む京大病院や道内医療機関と連携を図りながら、質の高い個別化医療を推進していく方針が示された。

京大腫瘍薬物治療学講座の武藤学教授は、京大 2015年度から実施し



北大の探索病理と腫瘍病理が主催した特別シンポジウム

ているが、クリニカルシークエンス「オンコプライム」を紹介。がん患者の中でも原発不明がん、希少がん、標準治療が適応しない再発進行がんを対象に、採取した検体を米国検査施設へ送り、がん関連遺伝子の変異を解析し、最適な抗がん薬や治療法を調べているという。

「きる」とアピールし、国内全体の治療成績向上を目指す考えを示した。

北大探索病理学講座の西原特任教授は、がん遺伝子検査において「高品質な検体の確保が鍵」と指摘。適切な組織採取と迅速な検体処理が不可欠で、「pax検体が凍結検体を用いたい」として、検体管理を含めて北大病

患者への個別化医療を進めるとともに、岡山大、北大、千葉大などの各病院が参画するコンソーシアムプロジェクトも構築。がん患者の詳細な臨床データを匿名で集約すること、「治療の奏効例と無効例を情報共有で

文科省「フォ」

対し、院内は企業と連携し解析手法のレベルを上げ、2週間で済むと強調した。

がん遺伝子診断外来は主治医からの紹介予約で月曜日と木曜日の午後3枠ずつのため、年間で

3000人程度しか受け付けられない。北海道がんセンターなどと連携を図り、患者の相互受け入れを行うなど「オール北海道体制で、がんゲノム医療を推進したい」と語った。

れると評価された。

研究大学強化 北大は「順調」

文化促進事業で、201年度フォローアップ結果が公表され、北大は5階評価で上から2番目「順調に進んでいる」だった。

革を支援するため、13年度に創設。採択された全22機関（19大学・3大
学共同利用機関）には、10年の事業期間中、毎年各2〜4億円の重点支援が行われる。

▽優れた研究ガバナンス▽イノベーション・社会実装で先進▽世界の頭が行き交うーを目的とする同大の取り組みは、RA（リサーチ・アド

22機関のフォローアップ結果は、最高評価の「特筆すべき進捗状況」が2施設「順調」13施設「おおむね順調」が7施設だった。

ミック・エンサーで院内検査できる体制はわが国初であり、結果が出るのは5週間、ミニストレーター）を経営マネジメント人材に位置づけており、ロールモデルになることが期待さ

北大(歯)
グループ

骨カルシウ

新たな

感謝胸に新たな一歩

長するようエールを送つた。

来賓の高橋はるみ道知事は兄辛で、也或罕り辛



と述べる医学生

北大歯学研究科の長谷 ながる 骨細

① 4月の予定

知匠士ヲ尚キ一知匠士ト云